

養育院巣鴨分院 元孤児たちが建てた石碑

監修：稲松孝思 顧問医
作：栄畑南美（えばた なみ） 老年学情報センター

櫻園通信 68 令和3年1月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先：老年学情報センター



東京都練馬区にある児童養護施設・東京都石神井学園。

ここに石碑があります。「気は長く 勤めはかたく 色薄く 食細ふして 心広かれ 栄一書」とありますが、これは渋沢栄一の手によるものです。

「短気にならずに気をゆったりと持ち、しっかりと働き、色欲はあまり持たず、食事は節制をして、心を広く持ちなさい」という意味です。

元々、このことばは、安土桃山時代から江戸時代初期にかけての高僧・天海が語った長寿の秘訣ですが、それを渋沢が引用したのではないかと思います。



裏面



では、どうして渋沢栄一の書
が彫られた石碑が、石神井学園
にあるのでしょうか。

表面



それは、東京都石神井学園の前身が、渋沢栄一が初代院長を務めた養育院の巣鴨分院だからです。

養育院は、1872年（明治5年）に病人、孤児、障害者、困窮者などの保護施設として設立されました。

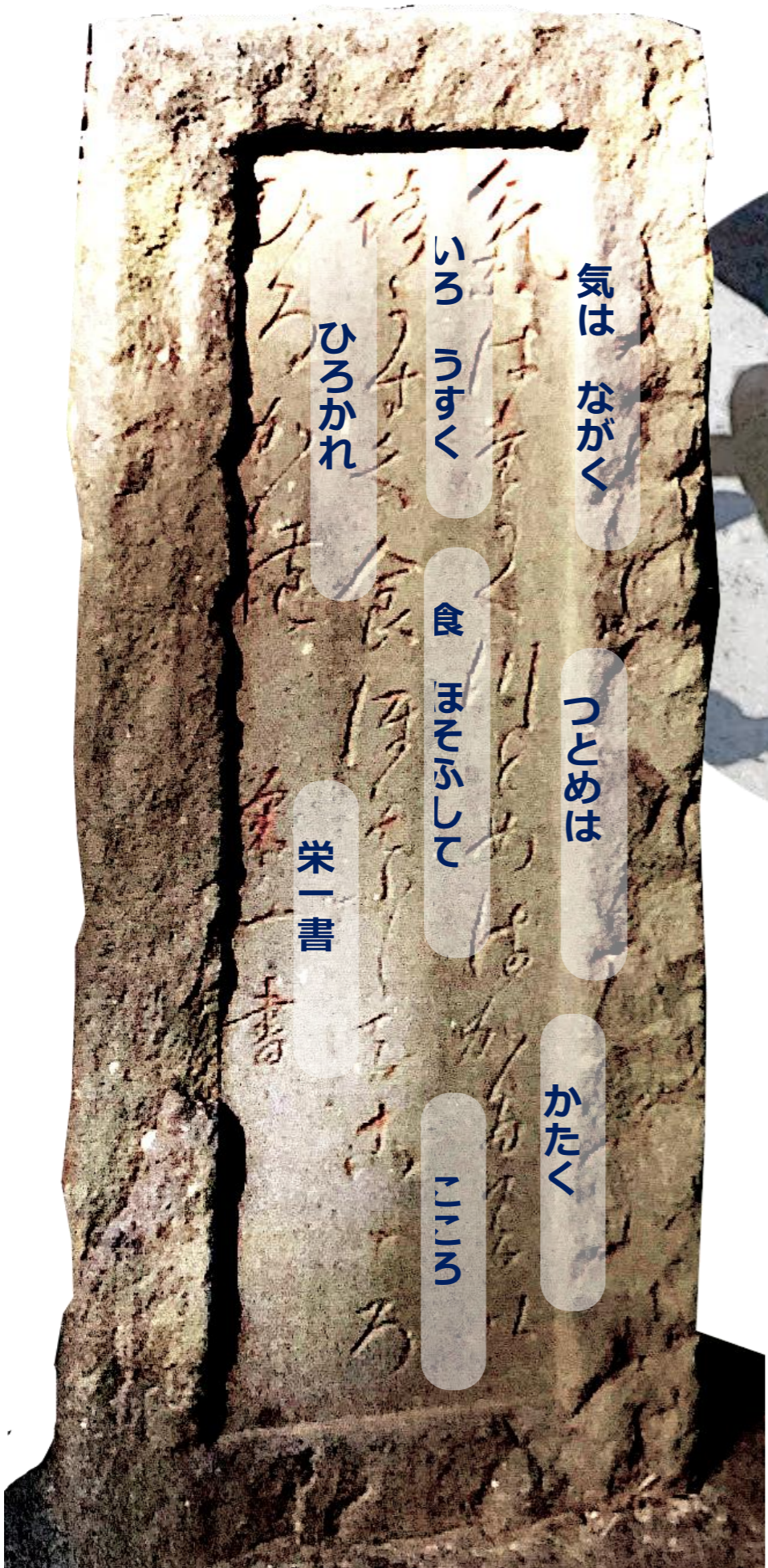
その後、1909年（明治42年）には、施設が手狭になったことと、入所している大人たちからの子どもへの悪影響を懸念して、孤児教育を目的とした養育院巣鴨分院が独立しました。

巣鴨分院は、1942年（昭和17年）に現在の土地に移転し、その時に名称も東京都石神井学園に変更され今に至っています。渋沢は、ほぼ毎月巣鴨分院を訪れ、子どもたちと話をしたと言われていました。

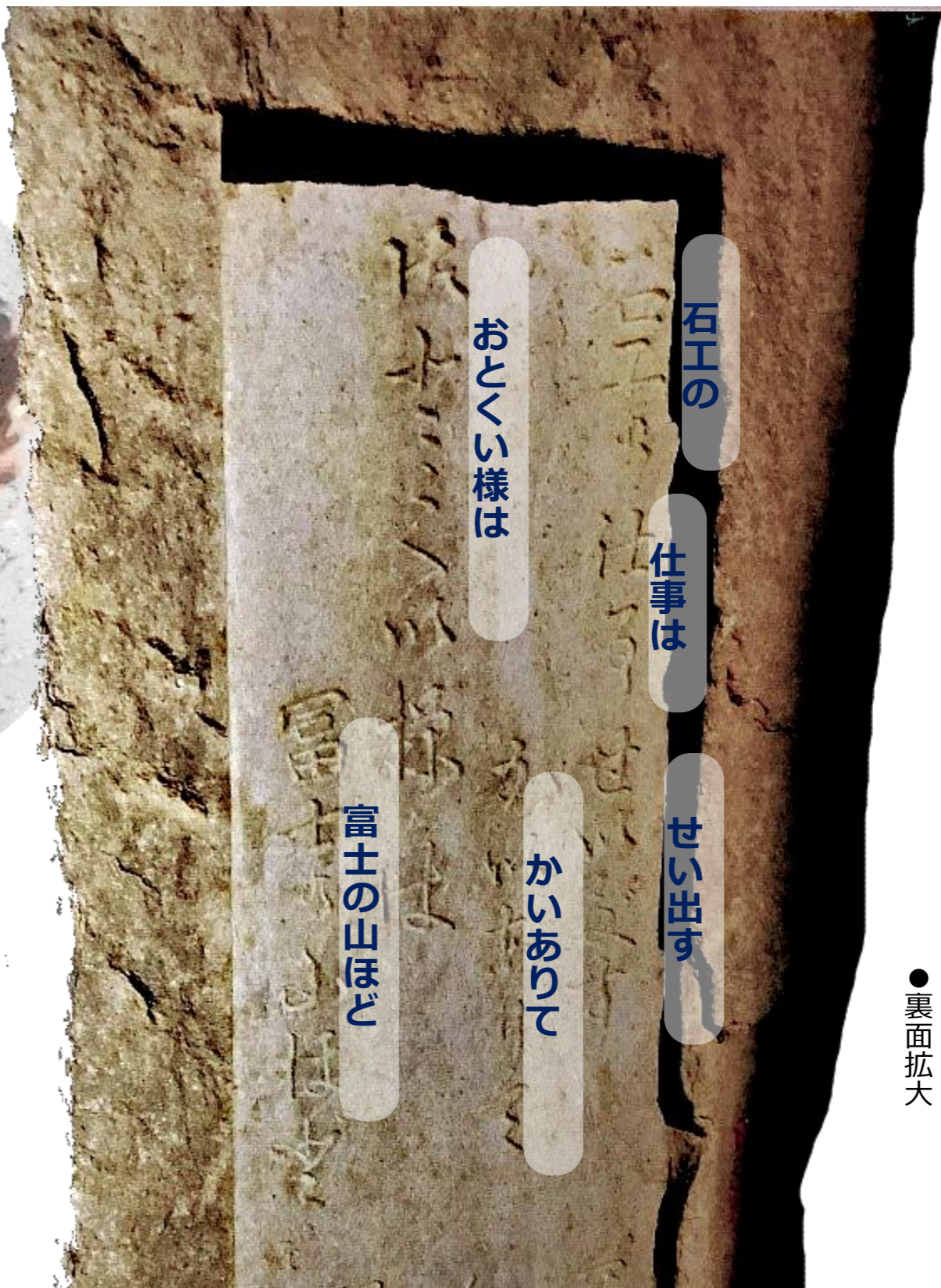
この石碑は、巣鴨分院で育った元孤児である石工たちが寄付して建立しました。石碑の背面には、石碑を作った元孤児である石工たちのことばも彫られています。「石工の仕事は 精出す 甲斐ありて おとくい様は 富士の山ほど」とあり、石工として立派に自立大成した様子が伺われます。

養育院から派生した巣鴨分院は、現在に繋がる児童福祉分野の先駆けだったとも言えるのではないのでしょうか。

●表面拡大



●裏面拡大



【参考文献】
 稲松孝思「都区職員のための渋沢栄一入門 15 新巻万円札の人 子どもたちの育成、論語と算盤 渋沢と教育・下」『都政新報』2020年11月27日、p.8
 「成り立ち・沿革」東京都社会福祉事業団東京都石神井学園ホームページ、
<https://www.jigyodan.org/shakujii-gakuen/about/history/> 2021年1月14日最終閲覧。